

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2023年第33週
(8月14日～8月20日)

- * 2023年8月23日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「増加の止まらない梅毒」も掲載しています。

令和5年(2023年)8月24日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：tmiph@section.metro.tokyo.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2023年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	42	52	45	38	1,243	230	8,732
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9)								
三類	コレラ					1		1
	細菌性赤痢					5		24
	腸管出血性大腸菌感染症	15	20	16	21	241	131	1,943
	腸チフス					4	1	27
	パラチフス					1		6
四類	E型肝炎		3	2	1	122	4	374
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					6		33
	エキノコックス症							9
	エムポックス			1		141	1	187
	黄熱							
	オウム病							7
	オムスク出血熱							
	回帰熱						1	14
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}						3	108
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							2
つつが虫病	1				5	1	109	
デング熱			4	1	21	5	65	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	13	240
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					4	1	12
	野兔病							
	ライム病					1		18
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	4	2	8	2	97	34	1,336
レプトスピラ症					1	2	10	
ロッキー山紅斑熱								

2023/8/23集計

(全数把握対象疾患のコメント: 一類～五類)

〈二類感染症〉

結核 38件 患者 28件(肺結核 21件、その他の結核 6件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 10件、年齢は10代 1件、20代 4件、30代 5件、40代 3件、50代 5件、60代 2件、70代 4件、80代 9件、90歳以上 5件、推定感染地は国内 15件、インドネシア 1件、フィリピン 1件、不明 21件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 21件 患者 18件、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO78 VT1 1件、O103 VT1 1件、O115 VT1 1件、O157 VT1・VT2 10件、O157 VT2 1件、O157 VT(型不明) 2件、血清型不明VT1・VT2 1件、血清型不明VT1 1件、血清型不明VT(型不明) 3件、年齢は5～9歳 3件、10代 4件、20代 5件、30代 2件、50代 4件、60代 1件、70代 2件、推定感染地は国内 16件、タイ 1件、不明 4件、推定感染経路は経口感染 14件、不明 7件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

デング熱 1件 病型はデング熱、血清型は不明、年齢は50代、推定感染地はインドであった。

レジオネラ症 2件 病型はポンティアック熱型 1件、肺炎型 1件、年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 1件、インド 1件、推定感染経路は不明 2件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 病型は腸管、年齢は20代、推定感染地はインドネシア、推定感染経路は経口感染であった。

ウイルス性肝炎 1件 C型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、B型肝炎ワクチン接種歴は接種なしであった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 6件 病原菌は*Klebsiella aerogenes* 2件、*Enterobacter cloacae* complex 1件、*Klebsiella pneumoniae* 1件、*Citrobacter amalonaticus* 1件、*Serratia marcescens* 1件、年齢は10代 1件、50代 1件、60代 1件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、以前からの保菌又は医療器具関連感染 1件、その他 2件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は渡航なし 6件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2023年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	5	1	2	1	60	13	318
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）		1		1	36		158
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	3	5	6	132	39	1,163
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く） ^{*1}					5	2	40
	急性脳炎 ^{*2}			2	1	21	4	343
	クリプトスポリジウム症					1	1	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	3	14	3	97
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	1	2	78	17	535
	後天性免疫不全症候群	10	6	8	4	202	9	609
	ジアルジア症		1			8	1	31
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1		2	29	9	358
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1		11
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	7	6	3	121	25	1,147
	水痘(入院例に限る)		3	3	1	46	7	245
	先天性風しん症候群							
	梅毒	68	71	71	72	2,371	168	9,482
	播種性クリプトコックス症					12	2	109
	破傷風			1	1	4	2	68
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				6	1	80
百日咳	5	2	2	1	83	14	595	
風しん					4		10	
麻しん					6 ^{*3}		22	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		11	

2023/8/23集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*3 遺伝子検査陰性1例を含む。

急性脳炎 1件 病原体はRSウイルス、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 3件 孤発性-古典型CJD 2件、遺伝性-家族性CJD 1件、年齢は70代 3件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件 血清群はA群 1件、G群 1件、年齢は20代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はその他 1件、不明 1件であった。

後天性免疫不全症候群 4件 無症候キャリア 3件、その他 1件、性別は男性 4件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 2件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 4件(同性間 3件、性別不明 1件)であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 2件 血清型はb型 1件、e型 1件、年齢は5歳未満 1件、80代 1件、推定感染地は国内 1件、不明 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、不明 1件、ヒブワクチン接種歴は3回接種済み 1件、不明 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 3件 血清型は未実施 2件、記載なし 1件、年齢は5歳未満 1件、60代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は不明 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価4回接種済み 1件、接種なし 2件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 72件 患者 56件(早期顕症梅毒Ⅰ期 31件、早期顕症梅毒Ⅱ期 24件、先天梅毒 1件)、無症候梅毒 16件、性別は男性 43件、女性 29件、年齢は5歳未満 1件、10代 5件、20代 29件、30代 10件、40代 15件、50代 7件、70代 5件、推定感染地は国内 66件、不明 6件、推定感染経路は性的接触 69件(同性間 9件、異性間 53件、性別不明 7件)、母子感染 1件、不明 2件であった。

破傷風 1件 臨床診断例、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

百日咳 1件 年齢は5～9歳、推定感染地は不明、百日咳含有ワクチン接種歴は4回接種済みであった。

※ 第32週で報告のあった〔四類〕A型肝炎 1件は削除された。

※ 第30週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第31週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 2件の追加報告があった。

※ 第32週該当分として〔四類〕レジオネラ症 2件、〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件、水痘(入院例) 1件、梅毒 4件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2023年33週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2023年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		30週	31週	32週	33週		
小児科	RSウイルス感染症	308	250	123	90	249	264
		1.18	0.97	0.50	0.36		
	咽頭結膜熱	103	141	134	154		
		0.39	0.55	0.54	0.62		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	349	302	268	205		
		1.34	1.17	1.08	0.82		
	感染性胃腸炎	966	874	687	614		
		3.70	3.39	2.77	2.47		
	水痘	28	29	26	23		
		0.11	0.11	0.10	0.09		
	手足口病	170	160	121	113		
		0.65	0.62	0.49	0.45		
	伝染性紅斑	2	2	1	6		
	0.01	0.01	0.00	0.02			
突発性発しん	65	70	45	49			
	0.25	0.27	0.18	0.20			
ヘルパンギーナ	840	528	320	136			
	3.22	2.05	1.29	0.55			
流行性耳下腺炎	15	7	9	7			
	0.06	0.03	0.04	0.03			
川崎病 *1	4	2	3	4			
	0.02	0.01	0.01	0.02			
不明発しん症 *1	21	22	15	6			
	0.08	0.09	0.06	0.02			
インフル エンザ /COVID -19	インフルエンザ *2	500	513	413	374	400	419
		1.20	1.24	1.05	0.94		
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	4,615	4,767	4,036	4,385		
		11.09	11.54	10.22	10.96		
眼科	急性出血性結膜炎					38	39
	流行性角結膜炎	14	17	18	14		
		0.36	0.44	0.51	0.37		
基幹	細菌性髄膜炎 *3		2		1	25	25
			0.08		0.04		
	無菌性髄膜炎		1				
			0.04				
	マイコプラズマ肺炎		1		2		
			0.04		0.08		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4							
インフルエンザ入院	4	1	4	3			
	0.16	0.04	0.16	0.12			

2023/8/23集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 全体的に定点当たり報告数は減少していますが、お盆時期の休診が影響していると思われます。
- ・ **新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)** は先週より増加しており、今後の動向に注意が必要です。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2023年33週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月	15	3		5							
6～11か月	16	4		49		9	11	12			
1歳	31	34	4	102		28	19	27	1		
2歳	18	21	7	69		26	1	11	23		
3歳	4	29	20	49	2	18	1	4	20	1	
4歳	2	22	22	49	1	10		1	13	1	2
5歳	1	16	27	44	1	8	1	1	17		1
6歳		10	20	41	4	4	1	1	10	2	
7歳		6	25	33	2	1			3	1	
8歳	1	1	21	31	4	2			1		
9歳		1	12	24	3	3	1		1	1	
10～14歳		2	27	59	4	2	1		3		
15～19歳	1		5	11		1					1
20～29歳	1	5	15	48	2	1		1	6		
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	90	154	205	614	23	113	6	49	136	7	4
先週比	-33	20	-63	-73	-3	-8	5	4	-184	-2	1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイ ルス感染症 (COVID-19)	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1	35		2	1					
6～11か月		4	66								1
1歳	3	14	97		1						
2歳	1	12	54								
3歳		14	38		1						
4歳	1	17	53		1						
5歳		19	54								
6歳	1	21	48								
7歳		25	44								
8歳		16	55								
9歳		22	45								
10～14歳		47	398								
15～19歳		35	253		2						1
20～29歳		34	608		2						
30～39歳		37	546		3			1			
40～49歳		31	631		2						
50～59歳		16	619								
60～69歳		4	368					1			
70～79歳		4	232								
80歳以上		1	141								1
合計	6	374	4,385		14	1		2			3
先週比	-9	-39	349		-4	1		2			-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2023年33週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田	0.33			1.00		0.33					
中央区		0.67		2.67		0.67			0.67		
みなと	0.67	1.50	0.17	1.83		1.00		0.17	0.67	0.33	0.17
新宿区	0.29	1.29	0.57	1.86			0.14		0.43		
文京		0.25	0.50	1.50	0.75	1.25	0.25		1.25	0.25	
台東		0.25	1.00	3.50		1.50		0.50	0.75		
墨田区		0.60	0.80	0.40		0.40			1.20		
江東区	0.33	0.44	0.33	2.89							
品川区		0.43	1.57	1.14		0.71		0.14	0.43		
目黒区	1.60	1.60	1.00	2.40		0.80			0.40		
大田区	1.00	0.50	0.42	3.75	0.08	0.42		0.17	0.50		
世田谷	1.14	1.64	0.79	2.43	0.50	0.43		0.14	1.14	0.07	0.14
渋谷区	0.50	0.25	0.25	1.25					0.25		
中野区		0.33	1.83	8.33	0.17	0.67		0.67	0.50		
杉並		0.40	0.70	1.20	0.20			0.10			0.10
池袋				0.20				0.20	0.20		
北区	0.29	0.29	1.00	0.86	0.14	1.71		0.57	0.86		
荒川区			0.75	1.50		0.25		1.00	1.25		
板橋区	0.40	0.60	1.40	1.10		0.30			0.60		
練馬区		0.44	0.78	1.33		0.22	0.11		1.22		
足立	0.38	0.15	0.15	4.08		0.69	0.08	0.38	0.46		
葛飾区	0.13	0.38	0.25	1.13	0.25			0.13			
江戸川	0.40	3.50	0.60	2.30		0.30			0.60	0.20	
八王子市	0.82	0.82	0.91	4.45	0.09	0.55		0.18	0.82		
町田市		0.25	1.25	4.00	0.13	0.75		0.88	0.38		
西多摩		0.13	0.25	0.88		0.38		0.13			
南多摩	0.50	0.88	0.63	4.50		0.38		0.50	0.38		
多摩立川	0.14		1.14	1.71	0.21	0.29		0.07	0.57		
多摩府中	0.25	0.20	0.70	2.45	0.05	0.55	0.10	0.25	0.50	0.05	
多摩小平	0.43	0.21	2.71	3.36		0.29		0.07	0.50		
島しょ									1.00		
東京都	0.36	0.62	0.82	2.47	0.09	0.45	0.02	0.20	0.55	0.03	0.02

	小児科	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイ ルス感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		0.50	9.50								
中央区		0.80	3.60								
みなと		1.22	7.11					2.00			1.00
新宿区		0.50	14.10		1.50						
文京		1.86	12.86								
台東		2.57	7.71								
墨田区		2.75	29.25								1.00
江東区		0.93	11.64								
品川区		0.73	6.45								
目黒区		3.25	7.50								
大田区	0.08	1.45	9.25								
世田谷		1.65	12.00		2.50						
渋谷区		0.86	9.57								
中野区		1.10	18.20								
杉並		0.75	8.63								
池袋			7.25		2.00						
北区		1.00	11.09								
荒川区		1.29	13.71								
板橋区		0.56	8.44								
練馬区	0.22	0.80	10.93								
足立		0.20	8.90								
葛飾区		1.23	8.69		2.00						
江戸川		0.82	13.59								
八王子市	0.09	0.94	14.39								
町田市		0.38	11.46								
西多摩		0.86	7.64								
南多摩		1.08	12.00								
多摩立川	0.07	0.10	7.05								
多摩府中	0.05	0.53	10.34		0.67	0.33					0.33
多摩小平		0.68	13.14								
島しょ			40.00								
東京都	0.02	0.94	10.96		0.37	0.04		0.08			0.12

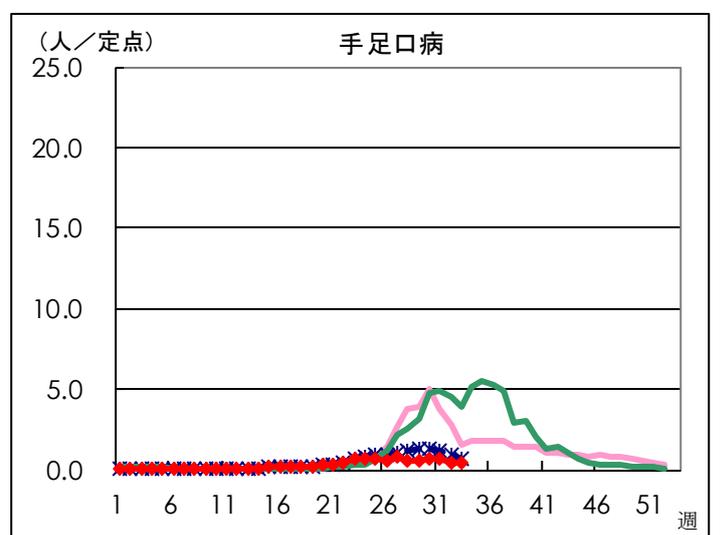
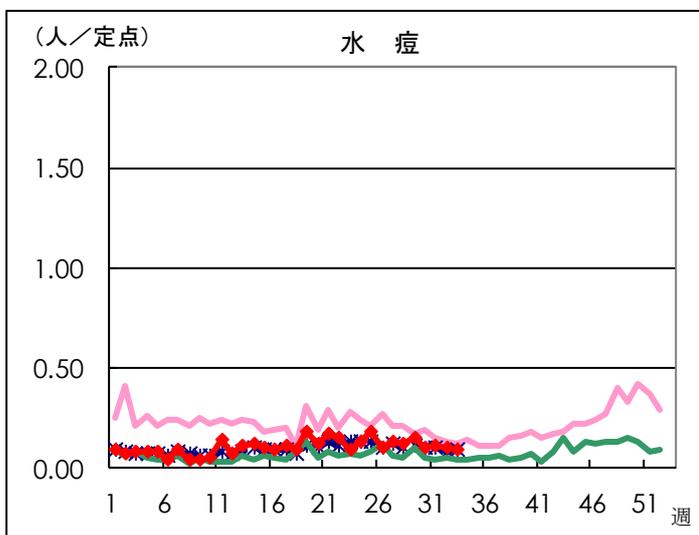
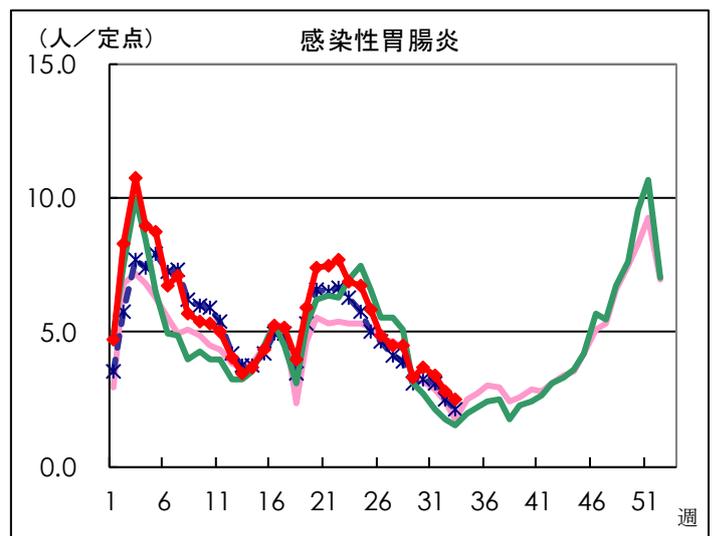
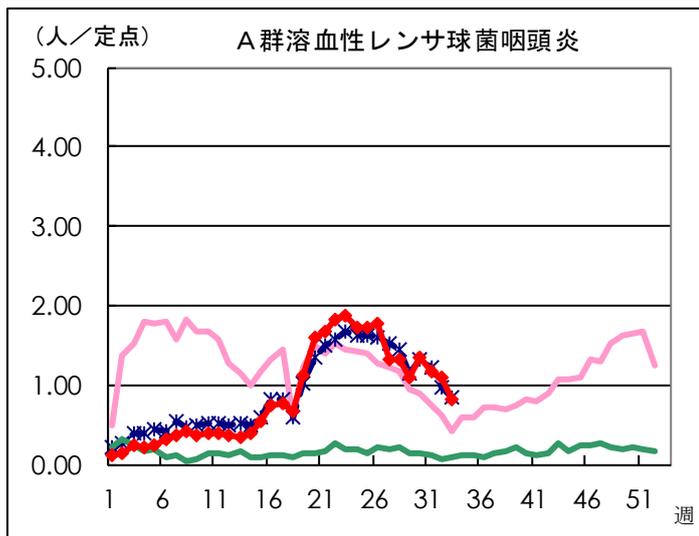
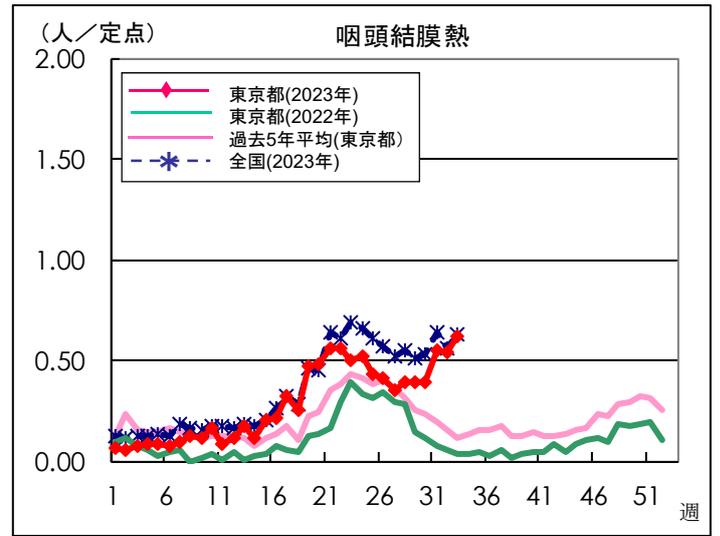
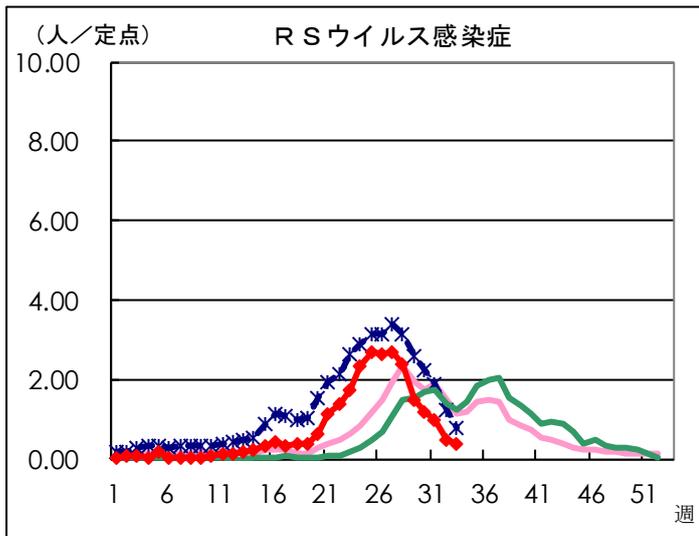
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2023年33週

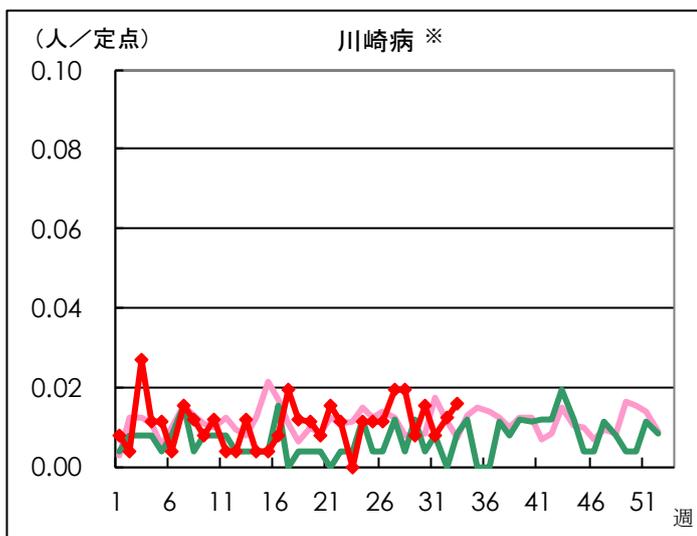
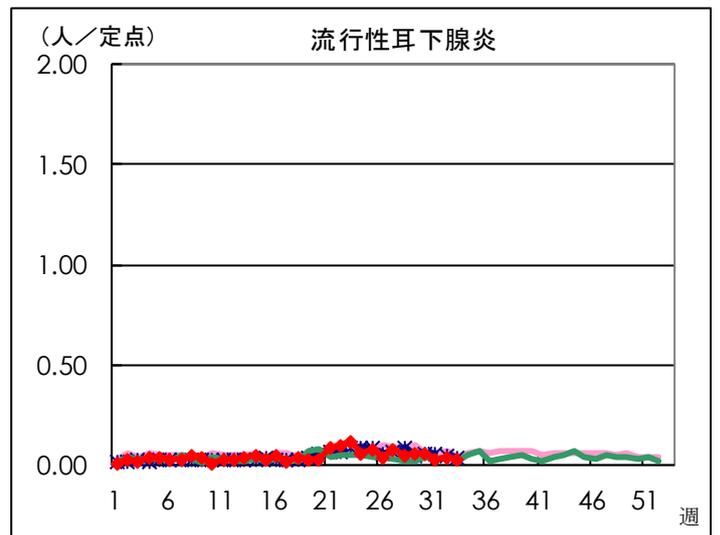
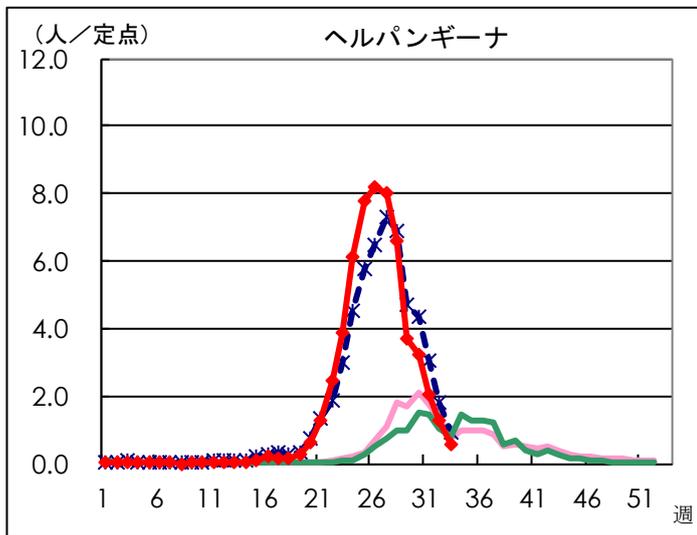
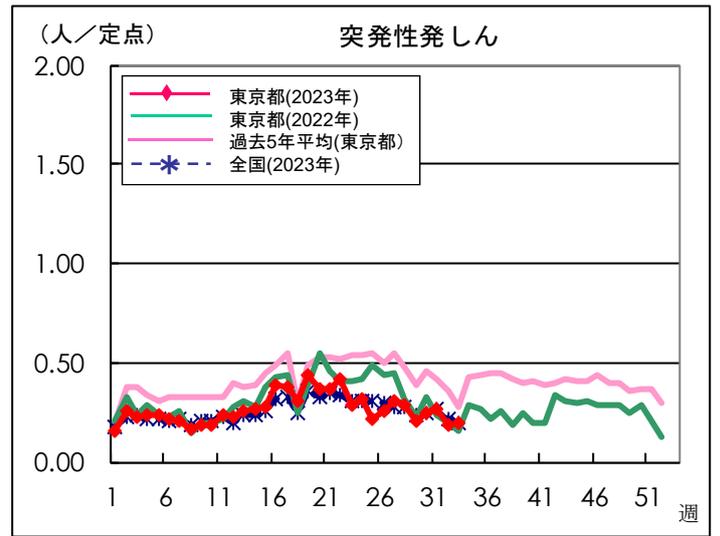
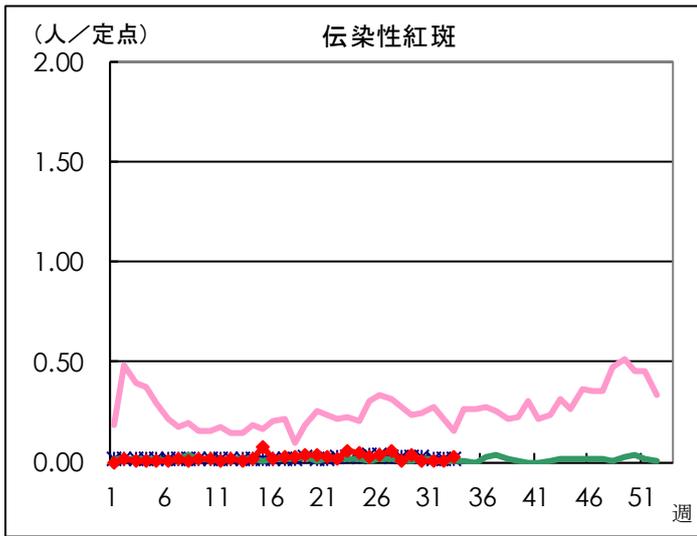
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田	1			3		1					
中央区		2		8		2			2		
みなと	4	9	1	11		6		1	4	2	1
新宿区	2	9	4	13			1		3		
文京		1	2	6	3	5	1		5	1	
台東		1	4	14		6		2	3		
墨田区		3	4	2		2			6		
江東区	3	4	3	26							
品川区		3	11	8		5		1	3		
目黒区	8	8	5	12		4			2		
大田区	12	6	5	45	1	5		2	6		
世田谷	16	23	11	34	7	6		2	16	1	2
渋谷区	2	1	1	5					1		
中野区		2	11	50	1	4		4	3		
杉並		4	7	12	2			1			1
池袋				1				1	1		
北区	2	2	7	6	1	12		4	6		
荒川区			3	6		1		4	5		
板橋区	4	6	14	11		3			6		
練馬区		4	7	12		2	1		11		
足立	5	2	2	53		9	1	5	6		
葛飾区	1	3	2	9	2			1			
江戸川	4	35	6	23		3			6	2	
八王子市	9	9	10	49	1	6		2	9		
町田市		2	10	32	1	6		7	3		
西多摩		1	2	7		3		1			
南多摩	4	7	5	36		3		4	3		
多摩立川	2		16	24	3	4		1	8		
多摩府中	5	4	14	49	1	11	2	5	10	1	
多摩小平	6	3	38	47		4		1	7		
島しょ									1		
東京都合計	90	154	205	614	23	113	6	49	136	7	4

	小児科	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		2	38								
中央区		4	18								
みなと		11	64					2			1
新宿区		5	141		3						
文京		13	90								
台東		18	54								
墨田区		22	234								1
江東区		13	163								
品川区		8	71								
目黒区		26	60								
大田区	1	29	185								
世田谷		38	276		5						
渋谷区		6	67								
中野区		11	182								
杉並		12	138								
池袋			58		2						
北区		11	122								
荒川区		9	96								
板橋区		9	135								
練馬区	2	12	164								
足立		4	178								
葛飾区		16	113		2						
江戸川		14	231								
八王子市	1	17	259								
町田市		5	149								
西多摩		12	107								
南多摩		13	144								
多摩立川	1	2	148								
多摩府中	1	17	331		2	1					1
多摩小平		15	289								
島しょ			80								
東京都合計	6	374	4,385		14	1		2			3

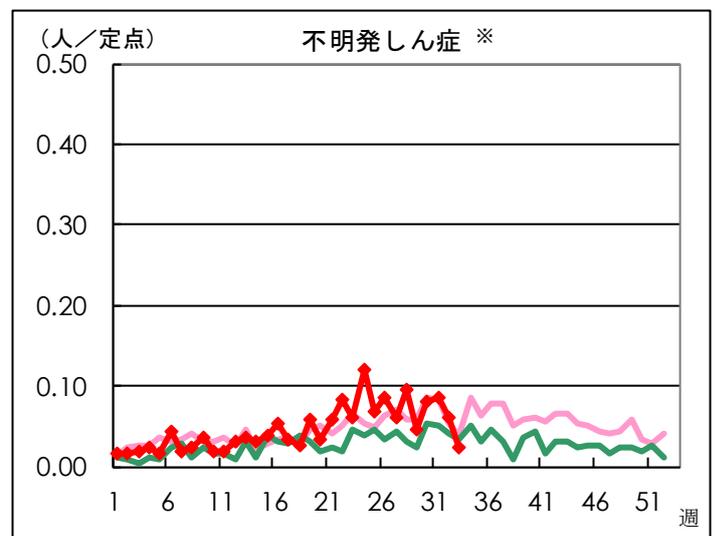
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2023年33週 現在)

◆ 小児科定点



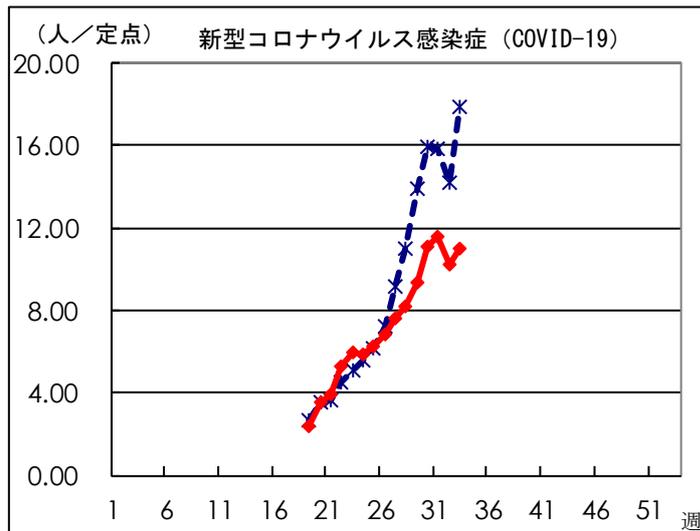
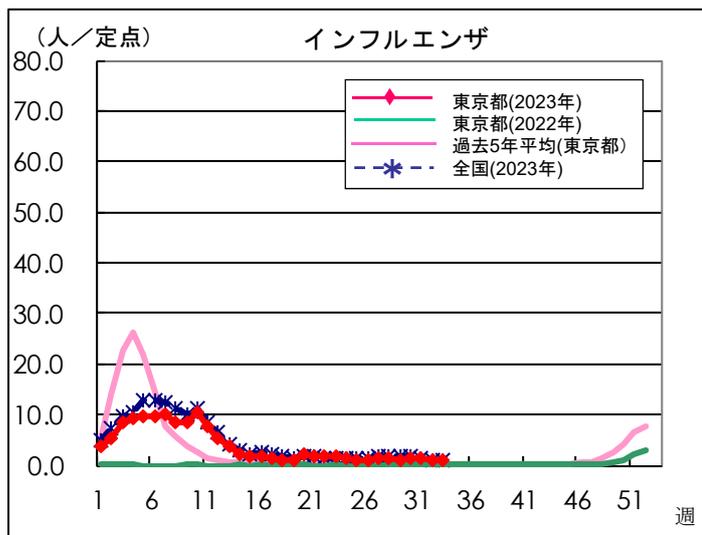


※ 東京都独自対象疾患

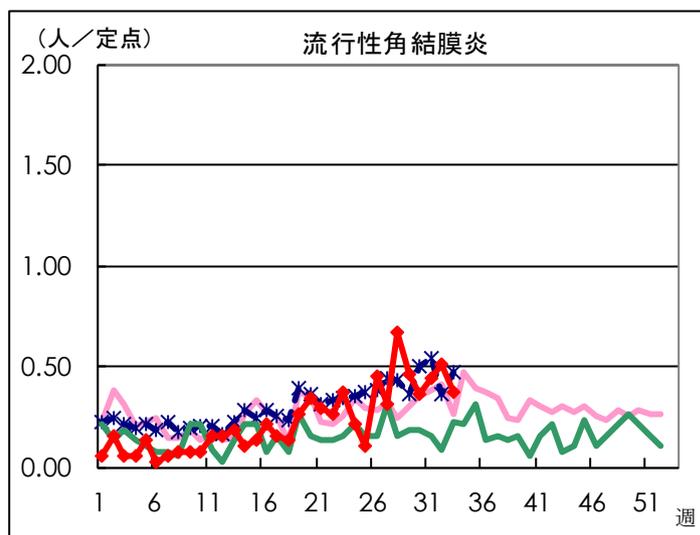
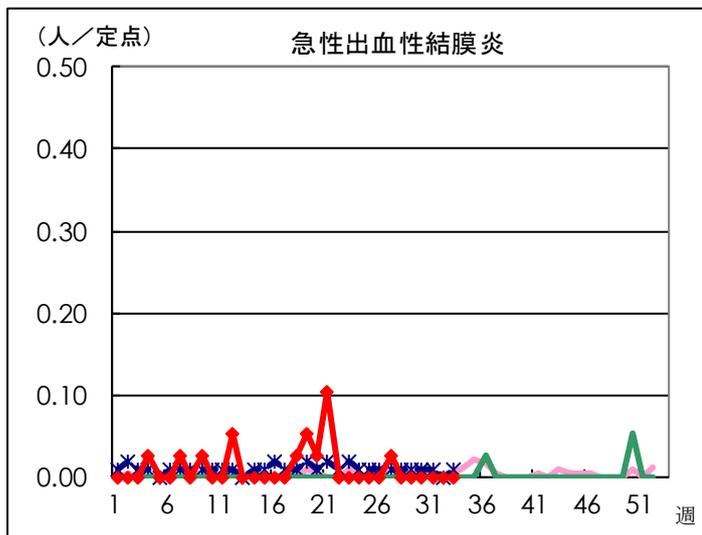


※ 東京都独自対象疾患

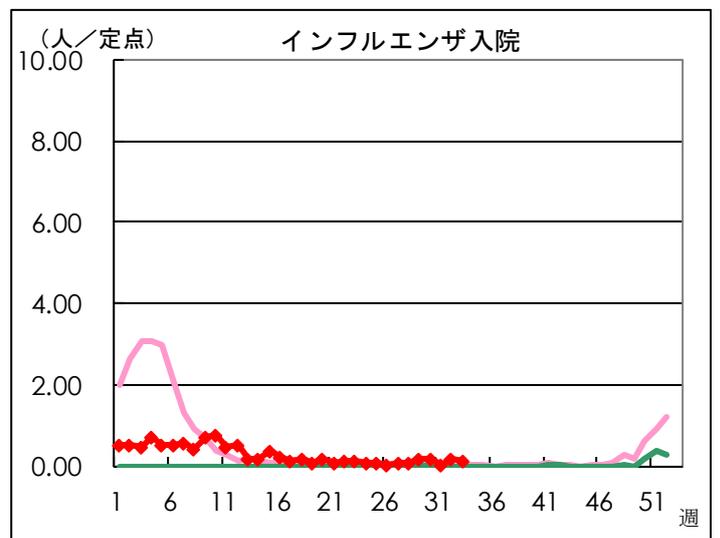
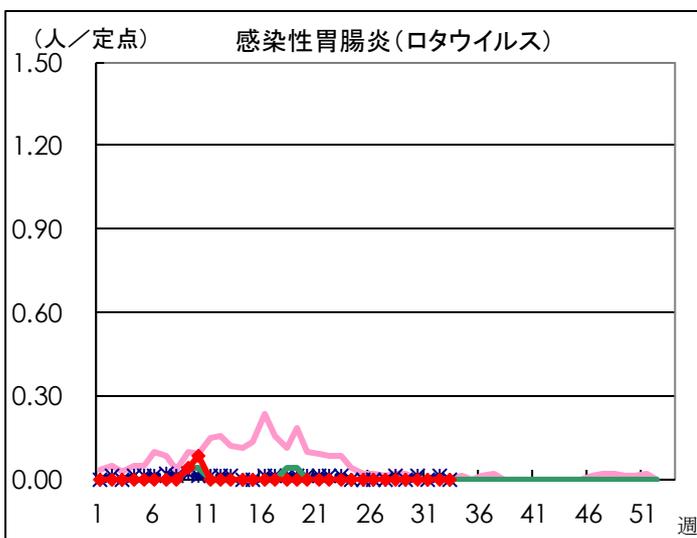
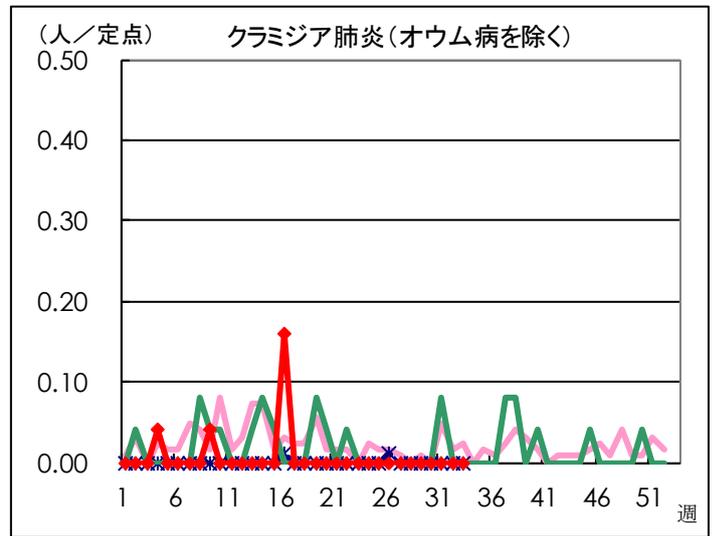
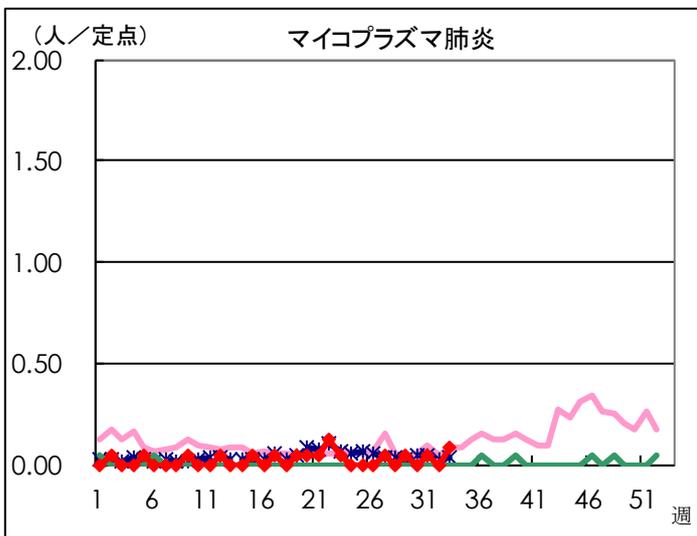
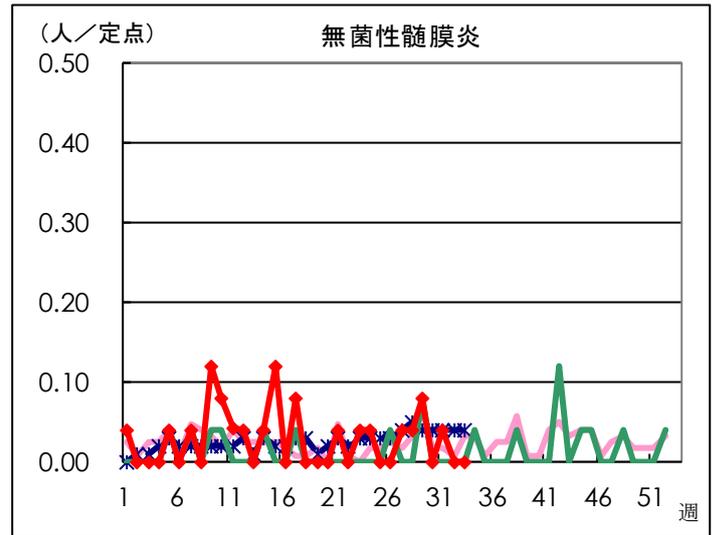
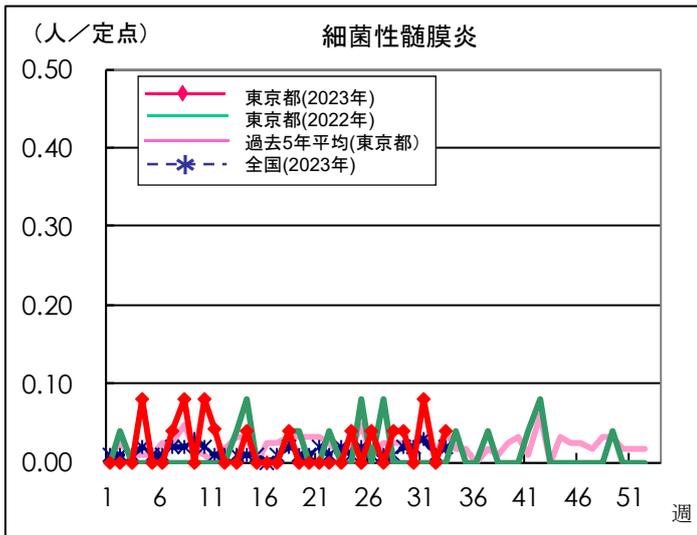
◆ インフルエンザ/COVID-19定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
7/21	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
7/22	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-B3264型
7/24	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-6型
7/24	RSウイルス感染症	11M	咽頭拭い液	RSウイルスB型
7/27	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
7/27	インフルエンザ様疾患	1	咽頭拭い液	ライノウイルス アデノウイルス1型
7/27	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型
7/29	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/31	インフルエンザ様疾患	24	咽頭拭い液	ライノウイルス
8/2	インフルエンザ様疾患	2	咽頭拭い液	ライノウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH3亜型	B型Victoria系統	B型Yamagata系統
2023年31週	1			
2022-2023年 シーズン累計*	9	124	4	

* 2022-2023年シーズンの開始は第36週(2022年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2023年							
	24週	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週
アデノウイルス								1
コクサッキーウイルスA群	3	4	1	2	2	1	1	
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71			1	1	2			
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス			2	2		1	2	3
ヒトメタニューモウイルス						2		
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型			1	1	1			2
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
風疹1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19								
RSウイルス				1	1	1		1
ノロウイルス								
ロタウイルス								
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1pdm09		1			2	1		1
インフルエンザウイルスAH3亜型			1				2	
インフルエンザウイルスB型Victoria系統								
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統								
SARS-CoV-2	4	2			2		1	
その他のウイルス	1		1	1			1	
A群溶血性レンサ球菌T-1型								
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								
A群溶血性レンサ球菌T-12型		1				4	2	
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				1			1	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2023年24週～2023年31週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	6	4	10			7		6	8	2		19	9	17					1	
アデノウイルス														1						
コクサッキーウイルスA群		2				2			7				2	1						
コクサッキーウイルスB群																				
エコーウイルス																				
エンテロウイルス71						4														
その他のエンテロウイルス																				
ライノウイルス		1											5	4						
ヒトメタニューモウイルス														2						
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・帯状疱疹ウイルス																				
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								4					1							
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)																				
風疹ウイルス																				
風疹1a型(ワクチンタイプ)																				
ヒトパルボウイルスB19																				
RSウイルス	4																			
ノロウイルス																				
ロタウイルス																				
サポウイルス																				
インフルエンザウイルスAH1pdm09														5						
インフルエンザウイルスAH3亜型														3						
インフルエンザウイルスB型Victoria系統																				
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統																				
SARS-CoV-2	1								1					7						
その他のウイルス														4						
A群溶血性レンサ球菌T-1型																				
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型																				
A群溶血性レンサ球菌T-12型				7																
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型																				
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				2																
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																				
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																				
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

<感染症豆知識>

増加の止まらない梅毒

梅毒患者報告数は2019～2020年にかけて一旦減少したが、2021年に再度増加に転じ、2022年には全国で12,964人と急増している。流行期にある梅毒は診療科を問わず患者に遭遇する可能性がある。

梅毒に感染すると10～90日間の潜伏期間を経て、侵入部位に硬結、潰瘍などの病変を生じる（早期梅毒第1期）。さらに4～10週間の潜伏期間の後、散布された臓器の病変を来す（早期梅毒第2期）。診断は病変部からPCR等の核酸増幅検査で菌を同定することが確実であるが、PCRは保険適用がなく検体採取に習熟を要するため、通常、梅毒抗体であるトレポネーマ抗体（TPHA、TPPA、TPLA、FTA-ABS等）と、非トレポネーマ脂質抗体（RPR法）の検査結果から判断する。いずれも検査技師が手作業で行う希釈倍率法（用手的検査）と自動化装置で行う自動化法があるが、連続した数値で表され、測定誤差の少ない自動化法が推奨される。ただし、感染初期ではこれら2つの検査の一方、あるいは両方が陰性の場合もあり、特に従来は陳旧性梅毒と判断されたRPR陰性、トレポネーマ抗体陽性の早期梅毒症例が増加している。未治療や他の感染症で不十分に抗菌薬を投与された可能性があり、感染機会や梅毒治療歴の有無等の問診を行い、2～4週後に再検査して値の推移を見るが、活動性梅毒の可能性が高いと判断した場合は抗体の陽性化を待たず暫定的に治療を開始する。治療は2022年1月に国際的標準薬である長時間作用型ペニシリン製剤のベンジルペニシリンベンザチン水和物が発売され、従来の第1選択であるアモキシシリン内服と同等の位置づけになった。成人及び13歳以上の小児の早期梅毒では同剤240万単位を単回臀部に筋注する。

梅毒急増の背景としてSNSやアプリなどインターネットを介して容易に性交渉を行う機会が増えたこと、コンドームを使用しないオーラルセックスの一般化などが指摘されているが明らかでない。また、報告例の年齢分布が男性は20～50代まで一様に多いのに対し、女性は20代に多く、若い女性の梅毒感染は先天性梅毒につながる懸念される。梅毒流行を阻止するための一層の努力が必要である。

（文責 山本医院（東京泌尿器科医会） 山本史郎）